

令和2年度 全国吟詠コンクール指定吟題 (岳精流)

① 寒夜の即事

寂室 元光

風寒林を挽て霜月明
炉辺筋閑芋煨も忘

客来清話三更過
静聴窓敲葉雨の声

⑥ 山行

杜 牧

遠寒山上石径斜
車を停り上愛楓林晚

白雲生処人家有
霜葉二月花紅

② 赤馬関舟中作

伊形 重雨

長風浪を破つて一帆還る
三十六灘行の尽す欲す

碧海遙く回る赤馬関
天辺始めて見る鎮西の山

⑦ 桶狭間を過ぐ

大田 錦城

荒原古き形古墳の前
怪風雨を吹て昼晦の如

戦克將驕る何ぞ全得ん
驚破す奇兵天降る

③ 立山を望む

周分 青庄

夢名山を見よ四十年
天明日出で驚き相揖すれば

暮山麓投すれば只雲煙
玉立群仙我前在り

⑧ 八幡公

頼山陽

結髮軍従さるる箭雄
白旗動ず兵營静かなり

八州の草木威風を識る
馬も辺城に立ち乱鴻を看る

④ 易水送別

駱賓王

此地燕丹に別る
昔時人已に没し

壮士髮冠を衝く
今日水猶寒し

⑨ 九月九日山東兄弟憶う

王 維

独り異郷に在りて異客を為
遥知る兄弟高き處に登る

佳節逢ふ毎倍親を思ふ
遍る茱萸挿して一人を少

⑤ 楓橋夜泊

張 繼

月落烏啼霜天満
姑蘇城外寒山寺

江楓漁火愁眠を対す
夜半の鐘声客船に到る

⑩ 廬山瀑布を望む

李 白

日香煙を照らす紫烟を生ず
飛流直下三千尺

遥看る瀑布長川に挂る
疑はば銀河の九天に落る

令和2年度全国吟詠コンクールの指定吟題 (財団アクセント付き)

① カンヤのソクジ ジャクシツ ゲンコウ
寒夜 即事 寂室 元光

カセは カンリンを ミダして ソウゲツ アキラかなり
風 寒林 攪 霜月 明
客 来 キタツて セイワシ サンコウを スぐ
客 来 清話 三更 過
ロヘンに ハシを オいて イモを ヤクを ワスレ
炬 辺 筋 闇 芋 煨 忘
静 聴 キけば マドを タクヨウウの コエ
静 聴 窓 敲 葉雨 声

② アカマがセキ シユウチユウの サク イガタ レイウ
赤馬 関 舟 中 作 伊形 靈雨
チヨウフウ ナミを ヤブって イツパン カエる
長 風 浪 破 一 帆 還
ヘキカイ ハルかに メぐる アカマがセキ ヘツカイもある
碧海 遥 回 赤馬 関
サシジユウロクダン エクゆく ツきんと ホツす
三 十 六 灘 行 尽 欲
テンベン ハジめて ミる チンゼイの ヤマ
天 辺 始 見 銀 西 山

③ タテヤマを ノゾむ コクフ セイガイ
立山 望 国分 青崖
ユメに メイザンを ミること シジユウネン
夢 名山 見 四十年
クレに サンロクに トウすれば タウウンエン トウすればもある
暮 山麓 投 只 雲煙
テンメイ ヒ イでて オドロキ アイ ニウすれば エウすればもある
天明 日出 鷲 相 損
玉 立 群仙 我 前 在
ギョクリツせる グンセン ワが マエに アリ

④ エキスイソウベツ ラクヒンノウ
易水 送別 駱賓王
コノ 刊 エン タンに ワかる
此 地 燕 丹 別
ソウシ ハツ カンムリを ツク
壮 士 髪 冠 衝
セキジ ヒト ステに ボツレ
昔 時 人 已 没
コンニチ ミス ナお サムシ
今 日 水 猶 寒

⑤ フウキヨウヤハク チヨウケイ
楓 橋 夜泊 張 繼
ツキ オち カラス ナいて シモ テンに ミつ
月 落 鳥 啼 霜 天 滿
コウフウ ギョカ シユウミンに ライイ
江 楓 漁 火 愁 眠 对
コソウヨウガイの カンザンジ カンザンジもある
姑蘇 城 外 寒 山 寺
ヤハンの ショウセイ カクセンに イタル
夜 半 鐘 声 客 船 到

⑥ サンコウ トボク 杜牧
山 行 杜牧
トオク カンザンに ノボれば セツイ ナナメなり
遠 寒 山 上 石 径 斜
ハクウン ショウズル トコロ ジンカ アリ
白 雲 生 処 人 家 有
クルマを トドめて ソゾるに アイサ フウリンの レ
車 停 坐 愛 楓 林 晚
ソウヨウは ニガツの ハナよりも クレナイなり
霜 葉 二 月 花 紅
クレナイなりもある

⑦ オケハザマを スぐ オオタ キンシヨウ
桶狭間 過 大田 錦城
コウゲン イニシエを トムロウ コファン マエ
荒 原 古 弔 古 墳 前
タタカイ カつて シヨウ オゴる ナンぞ マツタきを エん
戦 克 将 驕 何 全 得
カイフウ アメを フいて ヒル ヤミの ゴトし
怪 風 雨 吹 昼 晦 如
キヨウハす キヘイの テンより クダるかど クダるかともある
驚 破 奇 兵 天 降

⑧ ハチマンコウ ライ サンヨウ
八 幡 公 頼 山 陽
ケツバツ グンに シタゴうて キユウセン ヲウなり
結 髮 軍 従 弓 箭 雄
ハツシユウの ソウモク イフガを シる
八 州 草 木 威 風 識
ハツキ ウゴかず ヘイエイ シズかなり
白 旗 動 兵 營 静
ウマを ヘンジヨウに タてて ランコウを ミる
馬 迎 城 立 乱 鴻 看

⑨ クガツコノカ サントウの ケイテイを オモウ オウイ
九 月 九 日 山 東 兄 弟 憶 正 維
ヒト、イキヨウに アつて イカクと ナリ
独 異 郷 在 異 客 為
カセツに アう ゴトに マス マス シンを オモう 思 にもある
住 館 逢 毎 倍 倍 親 思 にもある
ハルかに シる ケイテイ 夕カきに ノボる トコロ 懐 念 して ンボる
暹 知 兄 弟 高 登 処
アツネク シユエを サして イチニを カクを
遍 茶 黄 挿 一 人 少

⑩ ロザンの バクフを ノゾむ リ ハク
廬山 瀑布 望 李白
ヒは コウロを テラして シエンを ショウズ
日 香 炉 照 紫 烟 生
ハルかに ミる バクフの チョウセンを カくるを
遙 看 瀑 布 長 川 挂
ヒリュウ チヨクカ サンゼンジャク チヨクカもある サンゼンジャクもある
飛 流 直 下 三 千 尺
ウタゴうらくは コレ ギンガの キユウテンより オつるかど
疑 是 銀 河 九 天 落
ウタゴウらくは ともある

廬山の瀑布を望む